

B型・C型肝炎 医療制度の拡充へ 肝炎ウイルス検査は お済みですか？

四月十七日（日）午前九時から、埼玉県戸田市文化会館にて、関東ダンプ協議会の総会が開催されます。ダンプ業界やダンプ労働者を取り巻く環境が激変する今の時代、大いに意見交換をしましょう。

あなたも気がつかないうちに感染しているかも…

肝がん・肝硬変で亡くなる方は毎年五万人以上です。肝がんの九割はB型・C型の肝炎ウイルスが原因です。

B型・C型肝炎ウイルスの感染経路は血液などに限られています。日本では約三十年前まで集団予防接種で注射器を使いまわしたこともあり、気づかずに観戦していた人が少なくありません。三代以上なら、誰が感染していてもおかしくはありません。

肝臓は「沈黙の臓器」とよばれ、深刻な症状になるまで自覚症状はありません。とくにB型肝炎は肝臓の検査結果が正常でも、お年をむすにつれて、突然に肝がんを発症することがあります。自分や家族のためにも、必ず一度は肝炎ウイルス検査



を受けてみることをお勧めします。

無料の検査制度などがあります。お住まいの自治体・保健所にお問い合わせください。

給付金を受けられる場合があります。

もし肝炎ウイルスに感染していたら、病院で精密検査を受けることが必要です。その後も継続的な経過観察や場合によっては治療が必要になります。

B型肝炎ウイルスの感染者は、集団予防接種の被害者への賠償として、国から「給付金」を受け取ることがあります。時間が経つほど、ご家族の逝去やカルテの廃棄などで、被害者と認められることが難しくなります。

B型・C型肝炎など、ウイルス性肝炎患者・感染者（キャリア）は、日本国内に約二百五十万人おり、毎日、約百人が亡くなっていると推計されています。

医療費助成へ

政府の調査でも、B型肝炎、肝硬変の患者は、毎年三四万円、十八万円という大きな事故負担に苦しんでいます。参照

現在の女性制度は、ウイルス量の抑制や重症化予防など、主に症状の軽い方向けであり、肝がん・肝硬変向けの医療費助成制度が必要です。

一昨年、厚労大臣が実現の意向を示し、昨年、参議院も署名を採択しました。

新薬開発の促進へ

C型肝炎には、ウイルスを体から排除できる新薬ができ、「なおる時代」と言われます。一方、B型肝炎では、ウイルスを減らす薬も中断すると悪化のおそれがあり、一生、やめることができません。

国もB型肝炎ウイルスを体から排除できる新薬開発（創薬）などの研究に支援をはじめていきます。

これまで輸血や予防接種などにおいて、さまざまな医療・公衆衛生の行政が感染を広げてくださいました。将来への不安や高い治療費に苦しむ患者・キャリアが安心できる医療制度を作

ることは国の責任です。B型肝炎訴訟弁護団は、栃木県内でも事務局があります。参照

社員は財産

エアケミ運輸支部は、二〇一六年春闘で全国酸素部会統一要求に基づき、三月二十三日に団体交渉を開催しました。

現時点ではベアはありませんが、代わりに特別休日出勤手当を三千円アップを提案してきました。

また同支部は、福利厚生関係の要求として、日酸運輸分会などが取り組んだ未消化の有給休暇を積み立て方式にし、社員や家族の傷病や介護・看護などに充当できる制度を提案しました。会社は前向きに検討すると回答。

会社は支部要求にこたえ、昨年は五十歳以上の社員には全額会社負担で脳ドックを取り入れました。

今年は、胃がんを未然に防ぐ観点から、定期健康診断時に、ピロリ菌検査も増やすと回答し、今年から導入すると回答しました。

社員は会社の宝、財産（人財）だと回答し、社員を大事にする事は社会的使命だと梅田社長は交渉の中でハッキリと回答しました。

【戦争法廃止二千万人署名の取り組み①】 「七十軒まわりの断られたのは一軒だけです」 一人で四四〇筆集めた丸井初江さん

安倍政権が昨年、多くの国民が反対するなか強行「採決」した安保関連法、いま組合では廃止を求める統一署名に取り組んでいます。

丸井さんのお話
「高年齢の方で今の若い人はたるんでいるから徴兵して鍛えたほうがいい」というご意見でした。

この署名は、労働組合だけでなく、市民団体や青年、学者グループ、宗教団体など、様々な市民が「戦争法廃止」の一点で共闘し、夏の参議院選挙までに全国で二千万人分の署名を集めるという壮大な国民運動です。

日光市在住の組合員丸井誠司さんの奥さん丸井初江さんは組合の呼びかけに応え、まず居住する地域の各家庭を一軒一軒訪問し協力を求めました。丸井さんが住む住宅地内の全世帯七〇軒を訪問し、断られたのは一軒だけでした。



「戦争法廃止署名」のご協力をお願いします（写真は別人）

「エネルギーシユな丸井さんは市内の友人知人にも訴えを上げました。創価学会の人からも協力していただきました。憲法を守りたいという思いはみんな一緒ですよ。署名をきつかけにいろんな人と対話することで私も元気になれるんです。若い頃に戻ったようです。」
丸井さんは二〇歳の頃から東武自動車労組の組合員として様々な活動に参加、その経験がいま生かされています。